

危機下の子どもたち

以下の地図は、子どもたちとその家族に影響を及ぼしている重大な危機を示している。

本地図は、国や領土の法的地位や国境線の位置について
ユニセフの立場を表明するものではありません。

ハイチ

ハイチの人道状況は、組織的暴力を含む最近の暴力の広がりや食料不安の高まりにより、大幅に悪化している。社会経済的・政治的な混乱、増大する市民の不安、コレラの再発なども大きな影響を及ぼしている。ハイチ全土で150万人以上の人々が最近の暴力の増加の影響を受けており、特に子どもや女性、避難民は依然として最も弱い立場に置かれている。過去最高の470万人が深刻な飢餓に直面している。燃料や物資を積み下ろす主要港へのアクセスは2022年9月以降封鎖されており、輸送、基本的サービスおよびインフラに深刻な影響を及ぼしている。これには、病院の業務、給水施設また通信インフラが含まれる。



メキシコと中米で移動する子どもたち

中米やメキシコでは、子どもたちの国境を越えた移動が活発化しており、多方向になるとともに、国境管理の強化により非正規ルートを利用する家族や子どもが増えている。そのため、子どもたちに対する虐待、搾取、家族離散のリスクが高まり、彼らの成長と発達、安寧が脅かされている。メキシコと中米にいる約330万人の子どもたちが、社会経済的危機、気候変動、食料不安、不公平の拡大により、人道支援を必要としている。新型コロナウイルス感染症のパンデミックからの復興は平等には進んでおらず、2023年には極度の貧困が増えると予想されている。ウクライナでの紛争は、食料価格の高騰を招き、生活必需品や基本的サービスの入手をさらに困難にした。



サヘル危機

中央サヘル地域は、アフリカで最も脆弱な地域のひとつである。紛争、気候変動、増大する政情不安、持続可能な開発の機会の欠如および貧困が重なり合い、この地域の人道支援ニーズは急速に高まっている。支援を必要としている人は、2021年4月の670万人から2022年10月には1,470万人へと急増した(うち1,000万人近くが子ども)。240万人以上が故郷を追われており、その半数以上が女性や子どもたちである。不安定な状況の悪化により、教育サービスは寸断され、閉鎖を余儀なくされた学校の数は2021年12月の5,000校近くから2022年9月の7,000校近くへと增加了。このため、子どもたちは武装集団による徴兵や、児童婚などのさらなるリスクにさらされている。中央サヘル地域では、2023年には100万人近くの子どもたちが重度の消耗症に苦しむ、約580万人が引き続き水への安定したアクセスが確保できない状態にあると予測されている。中央サヘルの危機の余波はベナン、コートジボワール、ガーナ、トーゴといった沿岸諸国のおよそ800万人に及ぶと推定されている。ベナンとコートジボワールでは2021年10月以降、何十回もの武装攻撃が記録されている。



コンゴ民主共和国

コンゴ民主共和国では、世界で最も複雑で長期的な危機のひとつが続いている。周期的に再燃する暴力と再流行する疾病がもたらす、慢性的な貧困と脆弱な体制のさらなる弱体化により、約1,540万人の子どもたちが非常に不安定な状況の矢面に立たされている。2022年、コンゴ民主共和国では紛争や暴力により530万人が国内避難民となり、同国は世界で2番目に国内避難民の数が多い国となった。国全体で、130万人以上の5歳未満児が重度の消耗症の治療を、390万人の子どもが緊急保護サービスを、660万人の人々が緊急の水・衛生サービスを、270万人の子どもが緊急教育支援を必要としている。



パキスタン

パキスタンの人の状況は、2022年6月に始まった未曾有の大雨と洪水によって悪化している。昨年8月末までの降雨量は、過去30年間の全国平均の約2.9倍に達し、広範な洪水や地滑りを引き起こした。これは、不安定な政治情勢、悪化する経済、新型コロナウイルス感染症のパンデミックの長引く影響、および多数の消耗症患者を生んだ長期化する栄養危機などに直面していた脆弱な立場の人々をさらに追い込んだ。公共および地域社会の給水設備や衛生施設への洪水の被害により、630万人が緊急に水・衛生サービスを必要としており、水や生物を媒介とする感染症のリスクが高まっている。推定160万人近くの子どもが重度の消耗症の治療を必要としている。保健施設のインフラ被害、および必須医薬品と冷蔵保管能力の損失により、保健ケアへのアクセスが制限されている。2万5,000以上の学校が損傷・壊滅し、洪水により960万人の子どもを含む推定2,060万人が、人道支援を必要としている。



地中海と西バルカンルート経由の難民・移民への対応

2022年8月時点で、ボスニア・ヘルツェゴビナ、ブルガリア、ギリシャ、イタリア、セルビアで暮らす難民・移民は47万3,450人いると推定されている(うち10万2,574人が子ども)。2022年には2021年と比較して74%増の約16万5,738人が新たに到着した。加えて、これらの国にはウクライナから26万5,118人の難民が逃れてきている。紛争、気候変動、食料不安により、移動する人々の数は過去10年間、毎年増加している。その結果、難民として欧洲にやってくる人の数は2023年も増え続けると予測されている。移動する子どもたち、特におとなの同伴者がいないもしくは離ればなれになった1万4,504人の子どもたちは、非常に脆弱な立場にあり、緊急のケアと保護を必要としている。



アフリカの角地域の干ばつ危機

アフリカの角は、エチオピア、ケニアおよびソマリアの一部で連続して過去4回の雨期で雨不足だとことを受け、近年で最も深刻な干ばつに見舞われている。この危機は、ジェンダーに基づく暴力や性的搾取・虐待のリスクを高め、子どもたちの教育へのアクセスを妨げてあり、女性や子どもたちに壊滅的な影響を与えている。

エチオピアでは、1,770万の子ども、940万の女性、640万人の障がい者を含む、少なくとも3,530万人の人々が、武力紛争、深刻な干ばつ、洪水、共同体間の暴力、およびコレラ、はしか、マラリアの流行といった多重の危機に苦しんでいる。

ケニアでは、乾燥・半乾燥地帯の430万人が、深刻な食料不安に直面しており、5回目の雨期も雨不足と予測されているため、国の干ばつ管理機関は、2022年12月以降も状況は悪化し続けると見ている。22万人以上の5歳未満児が重度の消耗症による治療を必要とすることとなる。

ソマリアでは、続く干ばつや紛争、避難、新型コロナウイルス感染症のパンデミックなどの壊滅的な影響により、2023年には770万人(うち子ども510万人、女の子と女性440万人)が人道支援を必要とすると推定している。2022年9月の食料安全保障・栄養分析ユニットの報告書によると、670万人が深刻な食料不安に陥ると推定されている。干ばつで避難を余儀なくされた100万人以上の人々の80%以上を占める女性と子どもが、引き続き危機の矢面に立たされている。



